

敷島南小学校 学校関係者評価書（前期）

平成22年7月26日（月）

敷島南小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成22年7月22日（木）午後7：00～9：00

会場：敷島南小学校校長室

参加者：（学校関係者評価委員）

学校評議員：五味武彦，由井英子，中込正久，小林 一

P T A会長：長田明美，P T A副会長：石川木綿子，飯沼佳代，長田あゆみ

（学校側）校長：伊藤 稔，教頭：井上由久，教務主任：丸茂和也

（欠席者）山口正智（学校評議員）

I 学校側から提案された内容

○自己評価結果及び児童のアンケートの結果に基づく今後の方針について

◇推進継続していきたい事項

- ・学校教育目標，学年教育目標など教育目標を見据えた教育実践
- ・基礎基本の定着を図る，また個に配慮した授業の実践
- ・児童が進んであいさつをする指導や取組
- ・開かれた学校づくりに向けての取組
- ・学校行事等への児童の主体的な参画

◇改善を加えていきたい事項

- ・教職員の福利厚生や健康管理への配慮
- ・相互理解や信頼関係を生かした教育活動
- ・校内研究への主体的なかかわり
- ・評価規準と評価方法を明確にした指導
- ・生き方教育の充実

II 協議された主な内容

（1）教職員の自己評価の結果・分析に関して

①教職員の福利厚生や健康管理への配慮について

- ・このことについては，学校だけではどうにもならないことも多い。学校で心掛けたいことは年休を取ったときには誰かが代わりに入ってくれるという安心感を築けるようにしていくことであろう。
- ・出張も空ける原因となる。このときも補欠に入る体制をとることが大切である。

②様々な教師と関わりのもてる体制づくりについて

- ・6学年は担任同士の交換授業をしている。これは教師間の関係を開かれたものにし，子どもたちへ，よい影響を与えている。
- ・交換授業に限らず，多くの先生方に授業などで関わってもらうことを，ぜひ拡大して行ってほしい。

③生き方教育に関わっての地域での子どもを育てる取組について

- ・自治会が中心になって、お祭りや、歩け歩け大会などを実施している。有価物回収作業を子どもたちに当番を任せて行うことも取り入れて実施している。
- ・活動を実施するに当たって、担当する大人の意欲や指導力が大きく影響する。

④危機管理マニュアルに関わって

- ・危機管理マニュアルが理解できていないと回答しているのは問題である。安全は最も重視しなければならないことではないか。

(回答)自らを戒める意味から回答していると思われるが、ご指摘のとおり重要事項であり、改善に努めていきたい。

⑤家庭との連携に関わって

- ・子どもたちの宿題やノート、作品などへ担任から常に赤ペンで一言をもらっている。これが大変励みになる。
- ・たよりを介して学校生活について子どもとの会話が弾むことがしばしばある。
- ・連絡帳でのやりとりや対応がありがたい。
- ・教師の持ち味を生かして、その子への細かな対応を重ねていくことが、家庭との連携につながる。

(2) 児童アンケートの結果・分析に関して

①全体をとおして

- ・100%完璧を期待すべきではないだろう。例えば、分からないことを先生に聞くかという質問があるが、子どもにも現時点の実態や個性にも違いがある。先生に聞けなくても友達に聞くという子どもがあってもよいだろう。

(回答)子ども同士の主体的な学びを構築し、子ども同士が互いに学びあえる体制をつくっていきたい。

- ・仲良しがいないと回答している子どもがいるのが気になる。

②あいさつについて

- ・あいさつについては、学校では重点的に取り組んでいるが、地域での様子を聞くとまだまだというところである。防犯上、難しさもある。
- ・顔見知りでないとなかなか子どもから声かけはできないだろう。
- ・大人から子どもたちに声をかけるように地域でも働きかけていくことも必要であろう。

(3) その他 要望事項等

- ・この学校評価は、今年度で4年目ということであるが、過去からの変化がわかるようなグラフなどを資料として提示してほしい。

(回答)2回目の学校関係者評価委員会では、1回目と2回目と比較できるような資料を準備している。経年経過についても項目を選びながら準備するよう検討していきたい。

- ・教職員の事務的な仕事をできるかぎり合理化していき、子どもと関わる時間を長くするように工夫してほしい。
- ・学校評議員として学校との関わりがもっと必要であると感じている。参観の機会や情報交換などでつながりを多くするように工夫してほしい。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

◇日頃の教育活動の実践に対する評価は、おおむね良好な水準にある。

- 学校教育目標を見据えた計画に基づき、個を大切にされた教育活動を展開している。
 - ・学びの意欲を喚起した授業が推進されている。
 - ・TT指導や少人数指導など個に配慮した授業が推進されている。
- 特色ある教育課程の編成と実践に取り組んでいる。
 - ・朝活動における読書活動を重視した取組が推進されている。
 - ・音楽集会、吹奏楽など音楽活動を重視した取組が推進されている。
 - ・地域人材や施設の活用を図った教育活動が計画・推進されている。
- 児童の主体性を伸ばすための教育活動に取り組んでいる。
 - ・児童が自ら考え、進んで発言することを重視して、日々の授業が展開されている。
 - ・縦割り班における自主的な活動が推進されている。
 - ・あいさつ運動に精力的に取り組んでおり、あいさつが向上している。
- 職員間の相互理解や信頼関係を深めることが大切であるとする意識が高い。
 - ・職員会議、校内研究会、学年会議、分掌会議など、職員の協議の場が大切にされ、共通理解が図れるように努められている。
- 学校生活や授業への満足度が高い児童が多い。
 - ・アンケートで肯定的な評価の児童が目立っている。
- 課題として
 - ・自らの考えや思いを相手に伝えるための表現力を向上させるための取組をさらに充実させること。
 - ・生き方教育（キャリア教育、進路指導など）の研究、指導の充実に努めること。
 - ・あいさつ運動を地域までに広めていくような取組を工夫していくこと。

II 特徴

◇教職員の自己評価より

すべての項目について肯定的な回答の割合が高く、良好な教育活動が展開されていると判断できる。一方、項目によっては、否定的な回答もある。すべての教職員に目を向けて、自己の教育活動はもとより、他の教職員の教育活動も肯定的に評価できるような体制・組織づくりに努めていくことが期待される。また、教職員の健康管理への配慮や、職員間の相互理解や信頼関係を深めるために、職員間のコミュニケーションを大切にされた組織づくりに努めていくことが期待される。

◇児童のアンケートより

全体的に好ましい回答の割合が高く、よい学校生活が送れていると判断できる。肯定的な傾向をさらに一層伸ばしていくことを目標として教育活動を展開していくことが期待される。また、項目によっては否定的な回答をしている児童もいる。その原因や要因を把握するなど児童理解に努めるとともに、児童一人一人に目を向けたきめ細かな指導を一層重視し、児童が自己有用感をもち、進んで自己実現をめざすことができる教育活動の実現に向けて取り組んでいくことが期待される。